

お変わりなくお過ごしのことと思います。早や今年も残すところ2か月余りになりました。いつも小さい者を覚えて、お祈りくださり感謝いたします。お陰様で私は、大きな病気をすることもなく事故に合うこともなく元気に過ごしています。健やかに奉仕できることは、幸いなことです。

9月に生まれたバレンティンの赤ちゃんは、ムイギシャ(神の祝福と言う意味)と名付けられすくすくと育っています。1か月が過ぎて徐々に表情が豊かになり可愛くなりました。産後のバレンティンも問題なく順調に経過しています。彼女は、ムイギシャが可愛くて仕方がない様子で、ムイギシャの誕生によって母としての責任が生じ、生活に張りが出てきたように見受けられます。

出産前、ムイギシャの父である男性から電話があり「会いたい・・・」といったそうですが、彼女は、「出産に必要な費用を準備しているのか。貴方に会う必要はない。子供には成長してから会ったらいい・・・」と言ったそうです。出産直後、今度は男性の家族から電話があり、「現在のところ、何の問題もない！！」と言って電話を切ったそうです。男性とその家族に対し毅然とした態度を取っているバレンティンですが、今後もこれを貫いて行って欲しいものです。



ムイギシャを抱くバレンティン

* * *

地域社会や教会での醜聞に苦しんだバレンティン母娘ですが、10月中旬、以前と同じ教会へ行ったところ、「よく戻って来た・・・」と言って教会の人たちから暖かく迎えられたそうです。そして、バレンティンのお母さんは、11月に洗礼を受けることになりました。彼女は、以前と比べ表情が明るくなりました。70歳を過ぎたお母さんの受洗は、私たちにとっても大きな喜びです。

比較的順調に経過しているバレンティンと対照的なのがアタナジィと子供たちです。アタナジィ一家がセンターを出て6か月が過ぎましたが、この間幾つかの事件がありました。20年以上の重いトラウマを抱えるアタナジィには、トラウマに由来する問題行動があります。それは、性的なモラルが低いこととアルコールへの依存であり、それらは子供たちへ深刻な影響を与えています。特に、15歳の長女・ベリーゼに対しアタナジィは辛く当たり、10月上旬には「お前を殺す・・・」と言って迫りました。その為、ベリーゼにはトラウマの症状が複数みられます。ベリーゼ及び他の子供たちを守るため、近くに住むワーカーのデボタのお宅へ数日間、避難させたことがありました。

本来、安らぎの場である家庭で緊張が続いたため、寛いだ時を提供すること、そして現在の境遇が劣悪であっても自分たちの人生がこれで決定した訳ではなく、夢を持って欲しいこと。その為に広い世界を見てほしいと考え、子供たちをキガリの我が家へ招きました。最初はベリーゼと次女のアリス、次に長男のサムエル、双子のパトリックとパシフィックで、最後に次男のジェロームと三女のベラ、そしてアタナジィを迎えました。未だ幼いベラを除く子供たち全員は、大変な喜びようでした。リリマから2時間30分を要するキガリまでの時間は、子供たちにとって退屈な時間ではなく興味津々で窓外を眺めているのでした。大きな市場の見学、レストランでの食事など、子供たちは一様に楽しんでようですが、少なくともベリーゼ、アリス、サムエルは何かを学んだようです。

一方、子供たちに同伴する私に対し、ルワンダの人たちは好意的でした。公共の乗り合いバスの中で、「この子たちは、貴女の子供か」「養子縁組をしたのか」「どうしてコミュニケーションを取るのか」などと尋ねられ、どこでも暖かい眼差しを感じました。子供たちをキガリに招いたことはやや疲れはしましたが、大人には考えられない子供たちの言葉や行為によって、爆笑した楽しい時でもありました。

12月には、アタナジィ一家をセンターへ戻し、再度私たちの保護下に置く予定ですが、それまで目を離せません。どうぞ、受益者の人たちのために続けてお祈りくださるようお願い致します。



パジャマの代用に女兒の服を着ている
パトリック。中央がサムエル。
(キガリの小宅にて)

祈りの課題

- アタナジィがアルコールを止めることができますように。
- 受益者の子供たち（アタナジィ：7人、バレンティン：1人、アルフォンシン：3人）が病気や事故などから守られ、健やかに成長しますように。
- 私の判断や選択が主の御心に沿ったものでありますように。
- 経済的必要が満たされますように。

どうぞ、お元気でお過ごしくださいますように。皆様、おひとり一人の上に
主の豊かな祝福がありますように、祈りつつ。

在主

11月6日

キガリにて

竹内 緑